

【特集】第33回国際労働問題シンポジウム ： COVID-19危機からより良い仕事の未来へ： 産業別の取組みと社会対話：特集にあたって

FUJIWARA, Chisa / 藤原, 千沙

(出版者 / Publisher)

法政大学大原社会問題研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

大原社会問題研究所雑誌 / Journal of Ohara Institute for Social Research

(巻 / Volume)

750

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

1

(発行年 / Year)

2021-04

【特集】第33回国際労働問題シンポジウム

COVID-19 危機からより良い仕事の未来へ

——産業別の取組みと社会対話

特集にあたって

本特集は、第33回国際労働問題シンポジウムの記録である。1987年から毎年行っている本シンポジウムは、原則としてその年のILO総会の議題のなかから日本との関係でとくに重要な議題をテーマとして取り上げてきたが、前回2019年はILO創立100年、大原社会問題研究所創立100年の記念すべき年だったことから、例年とは趣向を変えたシンポジウムを大阪で開催した（本誌743・744合併号（2020年9・10月号）に掲載）。2020年は例年通りILO総会の議題をテーマにすることを予定していたが、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的な広がりを受けて、ILO総会が開催されない事態となり、昨年同様、特別な年となった。報告者と参加者が一堂に会して開催することも難しくなり、本シンポジウムとしてはじめてオンライン形式にて開催した。幸い、昨年のシンポジウムに参加してくださった関西の方々をはじめ、全国各地から、また海外も含めて、214件の参加申し込みをいただき、当日はパネリストを含め160件の端末とオンラインでつながることができた。COVID-19を受けた国際的な労働問題をあらためて考える機会となり、昨年について、本シンポジウムの歴史を新たに刻むシンポジウムとなった。関係者の方々に御礼申し上げる。

（藤原千沙）

第33回国際労働問題シンポジウム

COVID-19 危機からより良い仕事の未来へ——産業別の取組みと社会対話

主催 法政大学大原社会問題研究所／ILO 駐日事務所

後援 日本ILO協議会

日時 2020年12月2日（水）14時～16時

方法 オンライン（Zoom ウェビナー）

プログラム

主催者挨拶 高崎真一（ILO 駐日代表）／鈴木玲（法政大学大原社会問題研究所所長）

ILO 紹介（録画メッセージ）

麻田千穂子（ILO アジア太平洋地域総局長）

■基調講演

「COVID-19 危機と ILO——産業別に見た取組み」

伊澤章（ILO 本部部門別活動局前次長）

■個別報告

「使用者（企業）の立場から」

吉川美奈子（株式会社アシックス CSR サステナビリティ部部长）

「労働者（労働組合）の立場から」

郷野晶子（UA ゼンセン参与／インダストリアル・グローバル

ユニオン日本加盟組織協議会事務局長）

「政府の立場から」

井内雅明（厚生労働省大臣官房総括審議官（国際担当））

「学識経験者から」

中村圭介（法政大学大学院連帯社会インスティテュート教授）

■ディスカッション

（司会：藤原千沙（法政大学大原社会問題研究所教授））

（注）肩書は2020年12月現在